高岡 望『日本はスウェーデンになるべきか』PHP 新書、2011 年

① 目次

はじめに

- 第1章 スウェーデンという国
- 第2章 スウェーデンの本質
- 第3章 世界一男女平等な国
- 第4章 手厚い社会保障の裏に
- 第5章 競争力強化のために
- 第6章 中立、EU、価値の外交

② 著者紹介

高岡望 たかおか のぞむ

1959 年生まれ。東京大学教養学部国際関係論分科卒業。

82 年、外務省入省。83 年よりオックスフォード大学ベリオールカレッジ留学（～85 年）。

93 年、在エジプト日本国大使館。96 年、在ニューヨーク日本国総領事館。2001 年、外務省文化交流部人物交流課長。02 年、在イタリア日本国大使館（05 年より公使）。

06 年、法務省入国管理局登録管理官。

08 年より現職。スウェーデン公使。ストックホルム商科大学付属研究所 EIJS 理事。

③ 選定理由

- ① あまり日本では表に出ない国であるスウェーデンだがまずはスウェーデンとはどういう国なのか、スウェーデン人はどのような国民性なのかを明らかにする。
- ② スウェーデンは消費税を始めとする税制度が日本と比較し大きく異なるため具体的に何が違うのか、またスウェーデンの税制度によって国民が得られる恩恵やデメリットを明示する。
- ③ 日本とスウェーデンとの繋がり、外交はどのようなものになっているのか。
- ④ 最終的には本書の内容を踏まえ「日本はスウェーデンになるべきか」というのを議論出来ることを目指す。

以上

教員のコメント：

選定理由の④がすばらしい。自分たちの意見をまとめ、みんなからの意見を喚起してほしい。

また、「第 5 章 競争力強化のために」を重視して発表してほしい。